

医療安全 トピックス TOPICS

Vol.99

慶越 真由美

日本看護協会看護開発部看護業務・医療安全課

医療事故から学ぶ「呼吸デバイス誤接続」

呼吸に関連する医療機器（以下：呼吸デバイス）は、適切な取り扱いをしなければ、生命に直結する重大事故につながる可能性があることは言うまでもありません。

呼吸デバイスに関連する安全情報は、これまで、厚生労働省、医薬品医療機器総合機構（PMDA）、日本医療機能評価機構医療事故情報収集等事業から、気管切開チューブへのスピーチバルブ等の誤接続に関することや、蘇生バッグの組み立て間違いに関することについて、注意喚起がされてきました^{*}。

しかし、呼吸デバイスに関連する医療事故は、スピーチバルブや蘇生バッグの取り扱いに関するものだけでなく、気管チューブや気管切開チューブなど気道を確保するチューブに誤った方法で酸素チューブなどの呼吸デバイスを接続し、患者が急変したという例も後を絶ちません。

呼吸デバイスは多種多様な製品があり、さまざまなデバイスと組み合わせて使用します。デバイス同士の組み合わせも多様であり、接続をしてはならないデバイスが接続できてしまうため、誤接続が起りやすい状態であるといえます。ここでは、呼吸デ

バイスに関連した医療事故のうち、デバイス同士の誤接続により呼気排出を妨げた医療事故を概観し、再発防止のための対策を提案します。

*今回は人工呼吸器の医療事故は除く。

●呼吸デバイス同士の誤接続に関する医療事故について

気管チューブや気管切開チューブなど気道を確保するチューブに、誤った方法で呼吸デバイスを接続し、重大事故となった事例を^{88ページ}図表1に示します。いずれも、排気口のあるT字型コネクタ（^{88ページ}写真1）を使用せずに、気管チューブに、酸素供給チューブやネブライザーを接続して呼気の排出を妨げ、重大な有害事象を呈しています。

図表1の事例では、汎用性のある連結コネクタや、L字型コネクタを介して接続していますが、気管チューブに直接酸素チューブを接続した例や、気管切開チューブに直接ネブライザーを接続し換気不全となった医療事故も報告されています。気道を確保する気管チューブや気管切開チューブに接続してはならないさまざまなデバイスが誤接続できてしまう

※これまで発出された呼吸デバイスに関する医療安全情報

- ・気管切開チューブに装着する器具に関する取扱いについて（医政総発01180010号、薬食安発第0118001号、平成20年1月18日）
- ・気管切開チューブへのスピーチバルブ等の誤接続の注意について（PMDA 医療安全情報No.3、2008年1月）
- ・蘇生バッグの組み立て間違いについて（PMDA 医療安全情報No.38、2013年5月）
- ・組み立て方を誤った手動式肺人工蘇生器を使用した事例（日本医療機能評価機構医療事故情報収集等事業第30回報告書 個別のテーマの検討状況、p.151、2012年9月26日）